

京都府コンシューマーボランティア

エシカルレポート～宝ホールディングス(株)・宝酒造(株)～

日時:令和4年8月10日(水)14:00～15:30 訪問先:宝ホールディングス株式会社本社(京都市下京区)

京都府コンシューマーボランティアとして活躍している大学生達が、エシカル消費を推進されている企業を訪問し、お話を伺って意見交換を行いました！

地域、環境、社会等に配慮した取組をされている企業が、どのようなお考えでどのような内容に取り組んでおられるのかを学びました。



これまでの築きあげてきた産地とのつながりを活かした、国産の地域密着型商品や、国産果実をムダなく活かす商品開発の取組等について教えていただきました。



「大学生にとって、エシカルってどういう認識のもの？モノを選ぶ基準になる？」「パッケージの感想は？」など、企業と大学生との意見交換も行いました。



全体的な感想

- 目まぐるしく変わる社会のニーズに対応しながら、また、地域密着を意識しながら商品開発されていて、その試行錯誤の過程などをお聞きできてとてもためになりました。
- 持続的で良い商品を作りアピールするなどの企業努力をしても限界はあり、もとよりエシカルな商品の詳細をそのパッケージなどで伝えることはできないので、産業の保護のためには、結局は消費者の側が、その意識や関心を商品の製造過程や産地などの情報に積極的に向けてもらうことを目指すなど、変化させることが必要になると思った。
- 大学生が本当にエシカル消費に興味を持っているのかなど、Z世代の考え方を深く理解しようとして下さっていてとても嬉しかったです。
- 京檸檬プロジェクトで、生産者・加工者・販売者が一丸となって活動されているということを聞いて、新しいことに常に挑戦されているのがとても魅力的に感じました。
- 企業の方とお話をするという貴重な経験ができて大変嬉しかったです。普段、何気なく選んでいる商品もエシカルなどの観点から考えて選ぶことも重要なのだと感じました。

参加学生へのアンケートから

印象に残った内容

- 茶畑をレモン畑として再生して、レモンを作りチューハイにしたこと
- チューハイを通じて地域の農家や作物のブランド化に繋がるなど具体的なエシカル消費の事例を知れて良かった。
- お酒に使う果物をどのように探すのかという質問に対して、今までの国産果実活用の活動がきっかけになって生産地から依頼がくることが多いとの回答があり、全ての行動がビジネスに繋がるのだと心に残っています。
- 企業と農家が協力して活動を行っていたこと。